

# 菟田野 古市場邑

国の始まり大和の国  
郡の始まり宇陀郡  
宇陀の始まり菟田野から



題字：森本 泰央  
挿絵：小松富美子

まちづくりマップ

## ふるいちば 古市場の歴史風土

菟田野は、「古事記」「日本書紀」にも名をみる古代文化発祥の地です。熊野・伊勢・大和を通ずる人文交通、経済文化の要所として古代、中世を通じて繁栄しました。また伊勢南街道の道中であり宿場町としても栄えた地です。まちの中心「古市場」の古名は、約千年前には「玉造部」と呼ばれ、地蔵の辻には市が立ち並んでいました。全国各地の方言が残る事からも当時の繁栄が窺い知れます。その後「市場」と名を変え、天正年間(1573年)に郡主秋山右近直国が市場を城下町松山(現大宇陀)に移して以来、「市場跡」「古市場」と呼ばれるようになりました。

## 催事

- ・ 1月1日 歳旦祭(宇太水分神社)
- ・ 2月7日 恵比須さん(宇太水分神社)
- ・ 4月初旬 みくまり桜・うたの夢街道(宇太水分神社周辺)
- ・ 8月16日 納涼夏祭(宇太水分神社)
- ・ 10月第3日曜 例大祭(宇太水分神社)
- ・ 12月31日 除夜の鐘つき(西法寺)



みくまり桜



神輿渡御祭(例大祭)

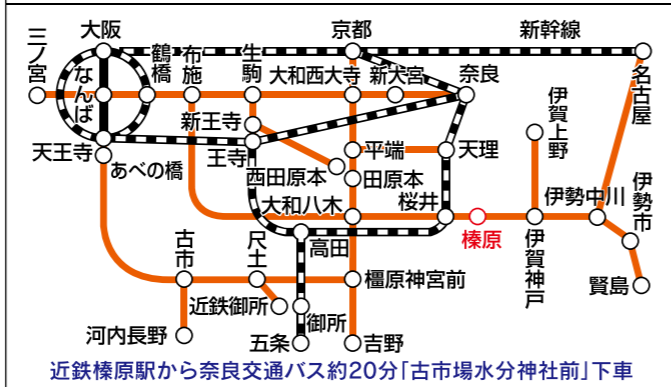


納涼夏祭



太鼓台練合せ(例大祭)

## 路線マップ



## 協働によるマップづくり

■奈良県では、地域資源を再発見するため、様々な地域でマップづくりを行っています。平成23年度は次の2地区で作成しました。

近内  
(五條市)

古市場  
(宇陀市)

他の地区のマップも是非ご覧ください。

奈良県まちづくりマップ 検索

■このマップは、「うたの夢街道実行委員会」と「なら・まちづくりコンシェルジュ(奈良県)」が協働で作成しました。  
■平成24年(2012年)3月発行  
■問い合わせ先：  
うたの夢街道実行委員会 (TEL 080-5702-4000)  
奈良県地域デザイン推進課 (TEL 0742-27-5433)

## 周辺広域案内

- ①宇太水分神社**  
元応2年(1320年)建造の本殿は、三社造りで一間社隅木入春日造りの国宝である。
- ②惣社水分神社**  
宇陀地方一帯の水の守り神として創祀された。所蔵の鳳輦神輿は、国の重要文化財。
- ③菟田野の高城**  
八咫鳥に導かれた神武天皇が築いた城跡。我が国最古の城跡といわれている。
- ④櫻實神社・八つ房杉**  
櫻實神社境内にある根元周囲9mの杉巨木。神武天皇が植えたと言えられる。国の天然記念物。
- ⑤宇賀神社・子もうけ石**  
宇賀神社境内の陰陽石の手洗い石、夫婦で撫でると子宝に恵まれるという。
- ⑥日張山・青蓮寺**  
中将姫が19歳の夏に、お堂建立したのが始まり。別名「再会寺」、出会いの願かけスポット。
- ⑦安楽寺跡**  
奈良時代の仏教文化と縁深い遺跡。多武峰談山神社の記録に「七堂伽藍あり」と書かれている事から、規模の大きさが想像できる。
- ⑧見田大沢古墳群**  
標高370mの尾根で発見された古墳群。国の指定遺跡。

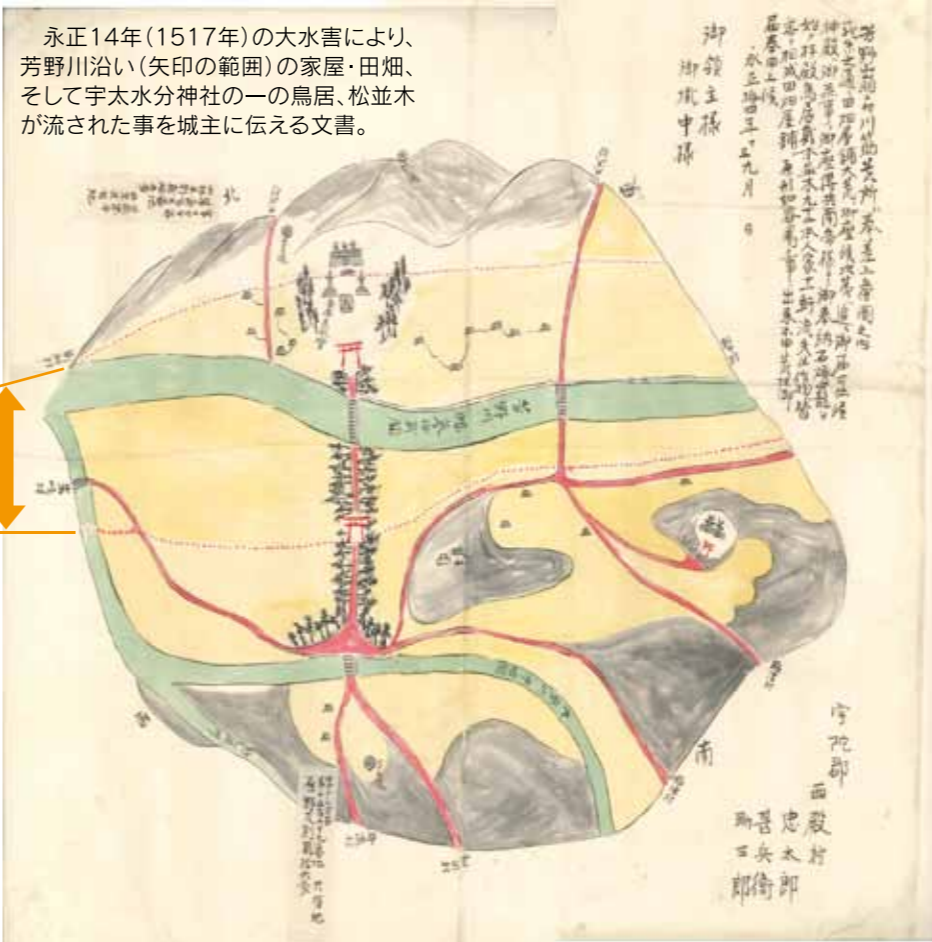


## ⑨平井大師山石仏群

四国八十八ヶ所を模した霊場。石工「丹波の佐吉(作師照信)」と弟子による約100体の石仏群。

## うたの古市場 古文書(上申書)

宇太水分神社所蔵



永正14年(1517年)の大水害により、芳野川沿い(矢印の範囲)の家屋・田畑、そして宇太水分神社の一の鳥居、松並木が流された事を城主に伝える文書。

## ■起源と由来

起源は平安時代にまで遡ります。上芳野(芳野川の上流)に位置する惣社水分神社の速秋津姫命様が、夫君である宇太水分神社御祭神、速秋津彦命様にお会いになるため、神輿にて渡御されるというロマンチックなお祭です。

## ■ルート

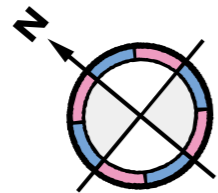
現在行われている「例大祭神輿渡御祭」のルートは、永正14年の大水害で流されてしまった元「一の鳥居」を通り、宮前橋を渡って境内に入る、という古式の流れを踏襲しています。



## ■鳳輦神輿

国の重要文化財に指定されており、約600年前の南北朝時代に建造されたものです。屋根の上に鳳凰の飾りがついた木造漆塗の荘厳なものです。祭り当日は、複製した神輿を使用します。

# 菟田野 古市場



### ①一の鳥居

永正14年(1517年)の大洪水で元一の鳥居は流された。現在の一の鳥居は、昭和59年(1984年)に再建された。



### ③旧宇太小学校

明治7年(1874年)3月に開設。昭和10年の火事により建替えを行い、長い間地元で親しまれてきたが、平成18年閉校。現在は、木造校舎を後世まで残そうと、世界のカエデを展示する広場として整備中。(平成25年オープン予定)



### ④安楽寺(雨宝童子)

宇陀郡史に「1434年光仁天皇宝亀5年8月宇太水分宮に別当神宮寺を建て本尊大日如来を安置す」と記されている。本尊である大日如来像の脇に納涼祭にゆかりのある雨宝童子が立像している。



### ⑤伝城山

別名「伝治郎山」とも言われる。南朝の忠臣・吉田豊後守の居城址。吉野伝奏の一つである。伝奏とはのろしを使った通信手段で、でんじろとは伝奏城のことである。大宇陀の松山城、菟田野の芳野城に伝奏する三角地点のひとつ。



### ⑥西法寺

伝城山の麓に位置する古市場の惣道場。浄土真宗本願寺派の寺院であり、敷地内には親鸞聖人像も置かれている。本堂は天明3年(1783年)建立、鬼瓦や本懸魚や虹梁の彫刻が見事である。



### ⑦米谷家

大正12年(1923年)建築。珍しい木造3階建。以前は、造り酒屋を営んでいた。



### ⑧岸家(旧米谷本家)

江戸末期の大和棟建築。茅葺屋根が美しい建物であったが、1950年代に鋼板葺きとなった。現在は天理教明宇分教会として使用されている。

### ①宇太水分神社

紀元前90年、第十代崇神天皇の勅祭と伝えられており、古くから水のまもり神として信仰を集めてきた。大和朝廷が飛鳥に置かれたころ、大和の国の東西南北(宇太、葛城、吉野、都祁)を守護する水分神の一尊とされた。境内には、推古天皇が葉狩の際に身を清めた「葉の井」(610年)や源頼朝が植えたといわれる「頼朝杉(2代目)」などもある。2003年に平成の大造営が行われ2004年、本殿の彩色が見事に復元された。

鎌倉時代末期の元応2年(1320年)に建造された本殿は、国宝指定、摂社は重文指定を受けている。



一間社隅木入春日造りの本殿



丹波の佐吉(作師照信)製作の狛犬



二の鳥居(両部鳥居形式) 上部の瓦屋根から「神仏習合」の跡がみられる。



カエデの小径から伝城山方面を望む



みくまり桜のライトアップ



### 飾り瓦(波の形)

火事予防の願掛けとして設置。色々なデザインがある。

### せいはいは 青海波

瓦屋根の棟部分の葺き方のひとつ。字のごとく「波」を表し、青い空が隙間から見える姿が美しい。希少価値が高い。

- バス停
- 駐車場
- トイレ
- ビュースポット

0m 50m 100m  
地図上の1cmは約25mです。



### 例大祭 御渡りルート



### ⑨山村家

大正初期の建物。貴賓客を迎える本玄関「式台玄関」が残る。また、煙出しが棟ではなく、通りと逆の屋根面に設けられており、奥行きが深い建物である。



### ⑩堀山家

江戸後期の建物。虫籠窓と煙出しが残る。その昔⑫の「上酒屋」直系の「酒販売店」であった。



### ⑪ほんみち宇陀支部 (旧菟岡半右衛門宅)

明治初期の建物。造り酒屋(通称:「下(シモ)酒屋」)の分家。現在は、宗教法人「ほんみち宇陀支部」の研修道場として使用されている。



### ⑫森本家

江戸後期の建物。境界でも名高い造り酒屋(通称:「上(カミ)酒屋」)として栄えた。屋敷は、元々「一反屋敷(30坪)」と呼ばれるほど、大きな敷地であった。



### ⑬中尾家

明治初期の建物。元造り酒屋(通称:増屋)。その後は、医院として地元で活躍した。



### ⑭脇田家

大正初期の建物。改修された箇所が少なく、全体的に当時の形態が残っていると思われる。小径沿いに佇む姿は、趣がある。



### ⑮片石家

明治初期の建物。民話「狐のお産」に出てくる旧北岡病院である。古市場境界では珍しい「妻入り」の建物である。



### ⑯地蔵の辻

約千年前、市が立ち並び栄えた要所。当時の様子を見守っていたお地蔵さんたちは、現在安楽寺に安置されている。



※狐の子と知らずにお産を手伝い、大金を受取るお話。このお金、実はご近所さんから拝借したもので、木の葉に比べて狐の誠実さが感じられる逸話である。